

仮想世界ゲームにおける集団間競争の認知が低地位集団への協力にもたらす影響

横田晋大・結城雅樹・大沼進

キーワード： 自己カテゴリー化理論、合理的選択理論、集団間競争、低地位集団

目的

本研究の目的は、地位の格差が存在する集団間状況において、集団間競争の認知が低地位集団における内集団への協力行動およびアイデンティティーに与える影響を、仮想世界ゲーム（広瀬，1997）を用いて検討することである。

低地位集団の問題 これまで一般に、地位格差が様々な違いを生じさせるとされてきた。例えば、高地位集団は内集団ひいき的であり、低地位集団では内集団ひいきが弱いという現象が見られてきた（e.g. Mullen, Brown, & Smith, 1992）。だが、低地位集団は常に内集団に対して非協力的であるとは限らない。むしろ低地位集団のメンバーが強い内集団ひいきを見せることもある（e.g. Turner, Hogg, Turner & Smith, 1984）。本研究では、低地位集団における内集団協力を促進する要因として、集団間競争の存在に注目する。

集団間競争と内集団協力 集団間競争の存在が人々の内集団への協力行動を増加させるということとは古くから指摘されてきた。この理由については、自己カテゴリー化理論および合理的選択理論の立場から説明することができる。まず自己カテゴリー化理論（Turner, Hogg, Oakes, Reicher, & Wetherell, 1987）に従えば、集団間競争のようにカテゴリーの顕現性が高まる状況では、カテゴリー間の対比効果と各カテゴリー内の同化効果が強まり、自己カテゴリー化、すなわち内集団アイデンティティーが高まると考えられる。そして、この内集団アイデンティティーの顕現化が、内集団への協力行動や内集団の肯定的評価を促進させるのである。

一方、Bornstein, Erev & Rosen (1990) は、合理的選択理論の立場から、集団間競争状況では誘因構造がステップレベル型の社会的ジレンマゲームに変化するため、内集団への協力行動が増加すると論じた。実際、彼らの実験では、集団間競争を導入された社会的ジレンマゲームにおいては、通常の社会的ジレンマ状況に比べて集団内の協力率が増加した。このように、上記のいずれの理論からも集団間競争の認知は人々の内集団協力行動を引き起こすことが予測される。